

業績ハイライト

Kirayaka Financial Group

主要な経営指標

■ きらやかホールディングス連結

(単位：百万円)

	平成19年3月期	平成20年3月期
連結経常収益	39,614	38,997
連結経常利益	△9,001	△1,445
連結当期純利益	△9,764	△3,113
連結純資産額	31,821	29,973
連結総資産額	1,218,159	1,166,485
1株当たり純資産額	247.97円	175.14円
1株当たり当期純利益	△77.09円	△25.17円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	—	—
連結自己資本比率(国内基準)	7.47%	7.15%

■ きらやかホールディングス単体

(単位：百万円)

	平成19年3月期	平成20年3月期
営業収益	1,178	1,664
経常利益	809	1,291
当期純利益	796	1,273

- (注) 1. 当社及び連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。
2. 「1株当たり純資産額」、「1株当たり当期純利益」及び「潜在株式調整後1株当たり当期純利益」の算定に当たっては、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号)及び「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号)を適用しております。なお、1株当たり純資産額は、企業会計基準適用指針第4号が改正されたことに伴い、平成18年度中間連結会計期間から繰延ヘッジ損益を含めて算出しております。
3. 連結自己資本比率は、銀行法第52条の25の規定に基づく金融庁告示に定められた算式に基づき作成しております。なお、当社は国内基準を採用しております。

営業の概況

■ 収益の状況(きらやかホールディングス)

当社グループの連結経常収益は、貸出金残高の減少に伴い資金運用収益が減少いたしました。その他経常収益の増加により前期比6億17百万円減少の389億97百万円となりました。一方、連結経常費用は、市場金利の上昇に伴い預金利息が増加いたしました。営業経費の削減に努めました結果、前期比81億72百万円減少の404億43百万円となりました。また、当連結会計年度は、両行の合併に伴う経営統合費用や店舗統廃合に伴う固定資産の減損処理等により、14億45百万円の連結経常損失、31億13百万円の連結当期純損失となりました。

■ 収益の状況(きらやか銀行単体)

経常収益は、資金運用収益が前年比4億71百万円の減少、役務取引等収益が前年比5億21百万円減少いたしました。会計基準の変更に伴い、睡眠預金をその他経常収益に計上したこと等により、前年比1億45百万円減少の319億56百万円となりました。

また経常利益は、合併に伴う費用や早期退職制度

導入による早期退職金、市場金利の上昇による資金調達費用が増加したこと、また、不良債権処理費用を37億96百万円計上したこと等により、19億66百万円の損失となりました。

当期純利益は、合併後の店舗統廃合に伴う営業用固定資産の減損処理の前倒実行による費用6億22百万円や前記睡眠預金に伴う引当金を特別損失に計上したこと、繰延税金資産を保守的に試算し4億86百万円取崩したこと等により、36億37百万円の純損失となりました。

なお、前年比につきましては、昨年度、資産の健全化を積極的に進め、不良債権処理費用を138億84百万円計上し、将来にわたる不良債権への備えを強化したことから、経常利益は71億円、当期純利益は58億83百万円改善いたしました。

■預金+預かり資産・貸出金(きらやか銀行単体)

預金+預かり資産残高につきましては、お客さまのニーズに積極的にお応えしたことから預かり資産が増加しましたが、預金が減少した結果、前年比398億円の減少となりました。

貸出金残高につきましては、個人向け貸出が減少したことから、前年比76億円の減少となりました。

※「収益の状況」および「預金+預かり資産・貸出金」につきましては、計数の比較のため、前年度の殖産銀行・山形しあわせ銀行の単体決算(合算値)と、本年度のきらやか銀行単体(山形しあわせ銀行の閉鎖決算を含む)の計数を比較しております。

■自己資本比率(きらやかホールディングス連結)

当社グループの連結自己資本比率は、両行の合併関連費用や店舗統廃合の実施等により、前期末比0.32ポイント低下し、7.15%となりました。

■閉鎖決算の実施

殖産銀行と山形しあわせ銀行の合併に伴い、消滅会社である山形しあわせ銀行については、閉鎖決算(期間:平成19年4月1日~平成19年5月6日)を実施いたしました。

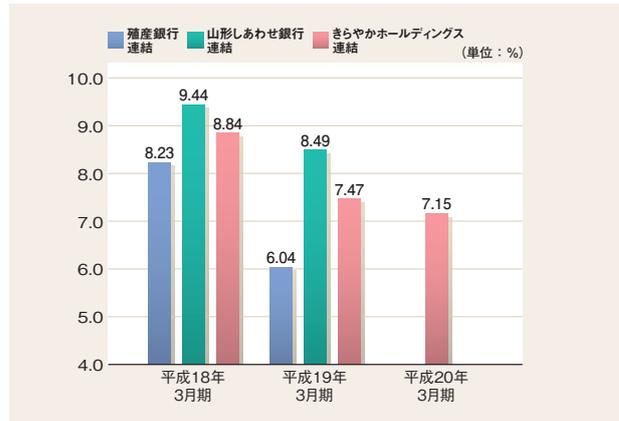
業績ハイライト／きらやかホールディングス（連結）

Kirayaka Holdings

経常利益・当期純利益の状況



自己資本比率の状況



【用語解説】

■ コア業務純益

「業務純益」から「一般貸倒引当金繰入額」と「国債等債券損益」を除いたものです。分かりやすく言えば、資金運用収益と調達費用の差額である資金運用収支と、送金手数料等の手数料収支から、営業経費を引いた、いわゆる銀行本業部分の収支の事を指します。

■ 経常利益

「業務純益」から「株式売買損益」や「個別貸倒引当金繰入額」などの臨時損益を加減した利益を指します。

■ 当期純利益

「経常利益」に「特別利益」と「特別損失」、そして法人税等の税金を加減した利益を指します。

■ 自己資本比率

総資本に占める自己資本の割合を指し、銀行経営の健全性や信頼度を示す指標のひとつです。

※金額は単位未満を切り捨てて表示しております。

※連結自己資本比率（国内基準）は、銀行法第52条の25の規定に基づく大蔵省告示に定められた算式に基づき算出しております。

なお、平成19年3月期および平成20年3月期は新基準（バーゼルⅡ）により、また平成18年3月期は旧基準によりそれぞれ算出しております。

※決算の詳細につきましては、きらやかホールディングスホームページ (<http://www.kirayaka-hd.co.jp/>) よりご覧いただけます。

業績ハイライト／きらやか銀行(単体)

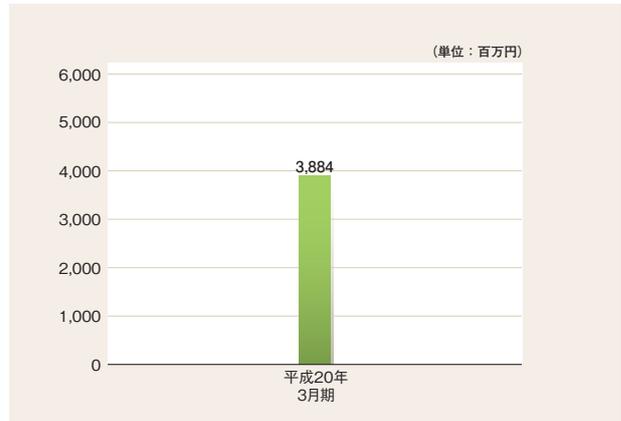
Kirayaka Bank

計数には、山形しあわせ銀行の閉鎖決算(平成19年4月1日～平成19年5月6日)を含んでおりません。

経常利益・当期純利益の状況



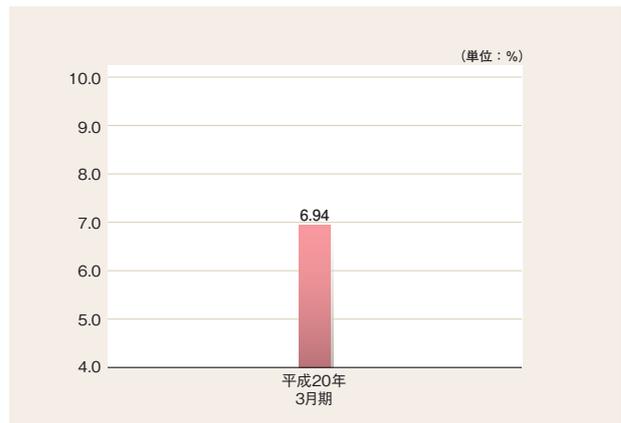
コア業務純益の状況



預金+預かり資産・貸出金の状況



自己資本比率の状況



※金額は単位未満を切り捨てて表示しております。

※預金には譲渡性預金を含みません。

※自己資本比率(国内基準)は、銀行法第14条の2の規定に基づく大蔵省告示に定められた算式に基づき算出しております。なお平成20年3月期は新基準(バーゼルII)により算出しております。

※決算の詳細につきましては、きらやかホールディングスホームページ(<http://www.kirayaka-hd.co.jp/>)よりご覧いただけます。

※1 〈参考〉業績ハイライト／きらやか銀行(単体)

Kirayaka Bank

※1 前年度までの計数との比較のため、きらやか銀行に山形しあわせ銀行の閉鎖決算(平成19年4月1日～平成19年5月6日)を含んで表示しております。

経常利益・当期純利益の状況



合併に伴う費用や早期退職金、市場金利の上昇による資金調達費用の増加、不良債権処理費用3,796百万円の計上等により、1,966百万円の経常損失となりました。また、店舗統廃合に伴う減損処理費用等の特別損失計上、繰延税金資産の取崩し等により、3,637百万円の当期純損失となりました。

※平成18年3月期、平成19年3月期は殖産銀行・山形しあわせ銀行両行の単体計数を合算して表示しております。

コア業務純益の状況



合併による経費の削減効果等により経費は前年比1,575百万円減少しましたが、資金需要の低迷により貸出金利息が減少したことに加え、市場金利の上昇に伴い預金利息が増加したことにより、コア業務純益は前年比549百万円減少の4,102百万円となりました。

※平成18年3月期、平成19年3月期は殖産銀行・山形しあわせ銀行両行の単体計数を合算して表示しております。

預金+預かり資産・貸出金の状況



預金+預かり資産残高につきましては、お客さまのニーズに積極的にお応えしたことから預かり資産が増加しましたが、預金が減少した結果、前年比398億円の減少となりました。

貸出金残高につきましては、個人向け貸出が減少したことから、前年比76億円の減少となりました。

※平成18年3月末、平成19年3月末は殖産銀行・山形しあわせ銀行両行の単体計数を合算して表示しております。

自己資本比率の状況



70億円の優先株式発行による自己資本の増強を行いました。しかし、赤字を計上したこと、株式市場の混乱により有価証券の評価損が拡大したこと等により、平成20年3月末における単体自己資本比率は6.94%となりました。

※金額は単位未満を切り捨てて表示しております。

※預金には譲渡性預金を含みません。

※自己資本比率(国内基準)は、銀行法第14条の2の規定に基づく大蔵省告示に定められた算式に基づき算出しております。なお平成20年3月期は新基準(バーゼルII)により算出しております。

※決算の詳細につきましては、きらやかホールディングスホームページ (<http://www.kirayaka-hd.co.jp/>) よりご覧いただけます。